

令和3年度 財政状況資料集

総括表（都道府県）

都道府県名	宮崎県			職員の状況			区分		令和3年度(千円)	令和2年度(千円)	区分		令和3年度(千円・%)	令和2年度(千円・%)	
				区分	定数	1人あたり平均 給料月額(百円)	歳入総額		歳入総額		実質収支比率				
グループ	D			知事	1	12,400	歳出総額	697,283,029	667,631,552	経常収支比率	83.7	92.5			
人口	令和2年国調(人)	1,069,576	特別職等	副知事	2	9,800	歳入歳出差引	17,102,052	20,878,119	(※1)	(90.8)	(98.0)			
	平成27年国調(人)	1,104,069		教育長	1	7,800	翌年度に繰越すべき財源	11,805,848	10,357,700	標準財政規模	341,128,195	327,214,787			
	増減率(%)	-3.1		議会議長	1	9,800	実質収支	5,296,204	10,520,419	財政力指数	0.34168	0.35767			
住民基本台帳人口 (※6)	令04.01.01(人)	1,078,313	一般職員等 (※5)	議会副議長	1	8,900	単年度収支	-5,224,215	2,782,813	公債費負担比率	17.4	19.4			
	うち日本人(人)	1,071,373		議会議員	37	7,800	積立金	9,822,796	4,726,322	健全化判断比率					
	令03.01.01(人)	1,087,372		区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-		
	うち日本人(人)	1,079,699		一般職員	4,871	15,363,134	3,154	積立金取崩し額	0	4,724,353	連結実質赤字比率	-	-		
	増減率(%)	-0.8		うち消防職員	-	-	-	実質単年度収支	4,598,581	2,784,782	実質公債費比率	10.6	10.6		
	うち日本人(%)	-0.8		うち技能労務職員	-	-	-	基準財政収入額	90,242,568	102,354,723	将来負担比率	95.7	103.6		
面積(km ²)	7,735			警察官	2,041	6,353,633	3,113	基準財政需要額	292,942,368	286,608,045	資金不足比率(※4)				
人口密度(人/km ²)	139			教育公務員	8,692	32,058,948	3,688	標準税収入額等	110,435,696	126,256,685					
世帯数(世帯)	470,055			臨時職員	1,201	2,979,681	2,481	經常経費充当一般財源等	302,731,368	300,696,800					
				合計	16,805	56,755,396	3,377	歳入一般財源等	443,606,533	405,725,238					
				ラスバイレ指数	97.4			地方債現在高	851,666,142	841,120,771					
								うち公的資金	334,643,606	349,248,167					
								地方債現在高(臨時財政対策債除き)	504,504,234	493,023,247					
								債務負担行為額(支出予定額)	110,648,419	93,134,118					
								収益事業収入	2,940,932	2,808,625					
								定額運用基金	-	-					
								土地開発基金	-	-					
								積立金現在高	21,545,584	11,722,788					
								減債基金	44,985,836	32,305,854					
								その他特定目的基金	70,128,241	59,584,446					
一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 団体名	(※3)					
(1)	一般会計	(11)	国民健康保険特別会計	(12)	工業用水道事業会計	(16)	えびの高原スポーツレクリエーション施設特別会計		(19)	公益財団法人宮崎県私学振興会					
(2)	小規模企業者等設備導入資金特別会計			(13)	電気事業会計	(17)	県営国民宿舎特別会計		(20)	公益財団法人宮崎県国際交流協会					
(3)	沿岸漁業改善資金特別会計			(14)	地域振興事業会計	(18)	港湾整備事業特別会計		(21)	公益財団法人宮崎県立芸術劇場					
(4)	山林基本財産特別会計			(15)	県立病院事業会計				(22)	公益財団法人宮崎県生活衛生営業指導センター					
(5)	拡大造林事業特別会計								(23)	公益財団法人宮崎県植樹推進財団					
(6)	公共用地取得事業特別会計								(24)	公益財団法人宮崎県健康づくり協会					
(7)	公債管理特別会計								(25)	公益財団法人宮崎県機械技術振興協会					
(8)	県立学校実習事業特別会計								(26)	公益財団法人宮崎県産業振興機構					
(9)	開発事業特別資金特別会計								(27)	宮崎県ソフトウェアセンター					
(10)	育英資金特別会計								(28)	公益社団法人宮崎県農業振興公社			○		

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補填債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。

※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。

※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、「健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。

※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。

※5：個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。

※6：人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

※7：職員の状況については、令和3年地方公務員給与実態調査に基づいている。

(1) 普通会計の状況（都道府県）

歳入の状況（単位 千円・％）					道府県税の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	139,600,628	19.5	108,611,494	32.6	普通税	139,289,965	99.8	875,515	
地方譲与税	19,996,501	2.8	19,996,501	6.0	法定普通税	139,289,965	99.8	875,515	
地方揮発油譲与税	2,115,352	0.3	2,115,352	0.6	道府県民税	33,597,638	24.1	875,515	
地方道路譲与税	-	-	-	-	個人均等割	1,018,913	0.7	258,037	
特別とん譲与税	-	-	-	-	所得割	28,472,511	20.4	-	
石油ガス譲与税	70,510	0.0	70,510	0.0	法人均等割	1,243,581	0.9	58,842	
自動車重量譲与税	89,070	0.0	89,070	0.0	法人税割	1,260,761	0.9	558,636	
航空機燃料譲与税	142,215	0.0	142,215	0.0	利子割	87,309	0.1	-	
森林環境譲与税	173,036	0.0	173,036	0.1	配当割	737,407	0.5	-	
特別法人事業譲与税	17,406,318	2.4	17,406,318	5.2	株式等譲渡所得割	777,156	0.6	-	
市町村たばこ税都道府県交付金	-	-	-	-	事業税	25,166,622	18.0	-	
地方特例交付金等	683,067	0.1	683,067	0.2	個人分	1,242,021	0.9	-	
個人住民税減収補填特例交付金	571,734	0.1	571,734	0.2	法人分	23,924,601	17.1	-	
自動車税減収補填特例交付金	111,333	0.0	111,333	0.0	地方消費税	53,512,549	38.3	-	
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	-	-	-	-	不動産取得税	2,287,650	1.6	-	
地方交付税	204,951,639	28.7	202,101,483	60.6	道府県たばこ税	1,295,048	0.9	-	
普通交付税	202,101,483	28.3	202,101,483	60.6	ゴルフ場利用税	385,506	0.3	-	
特別交付税	2,828,279	0.4	-	-	軽油引取税	9,092,703	6.5	-	
震災復興特別交付税	21,877	0.0	-	-	自動車税	13,945,058	10.0	-	
（一般財源計）	365,231,835	51.1	331,392,545	99.4	鉱区税	7,191	0.0	-	
交通安全対策特別交付金	472,410	0.1	472,410	0.1	固定資産税特例	-	-	-	
分担金・負担金	2,029,926	0.3	-	-	法定外普通税	-	-	-	
使用料	6,932,028	1.0	1,383,768	0.4	目的税	310,663	0.2	-	
手数料	2,625,292	0.4	-	-	法定目的税	21,719	0.0	-	
国庫支出金	154,153,430	21.6	-	-	狩猟税	21,719	0.0	-	
国有提供交付金	-	-	-	-	法定外目的税	288,944	0.2	-	
財産収入	1,277,061	0.2	-	-	旧法による税	-	-	-	
寄附金	314,587	0.0	-	-	合計	139,600,628	100.0	875,515	
繰入金	23,957,637	3.4	-	-					
繰越金	20,878,119	2.9	-	-					
諸収入	50,790,240	7.1	1,255	0.0					
地方債	85,722,516	12.0	-	-					
うち減収補填債（特例分）	-	-	-	-					
うち猶予特例債	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	28,591,016	4.0	-	-					
歳入合計	714,385,081	100.0	333,249,978	100.0					

歳出の状況（単位 千円・％）				
区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
議会費	1,129,858	0.2	-	1,033,368
総務費	82,019,499	11.8	3,813,463	71,967,076
民生費	97,955,768	14.0	786,079	82,225,050
衛生費	41,575,522	6.0	430,897	16,044,549
労働費	1,516,698	0.2	24,054	848,319
農林水産業費	55,857,688	8.0	32,613,674	16,646,540
商工費	69,401,587	10.0	652,872	13,829,627
土木費	91,382,731	13.1	84,296,605	12,652,000
警察費	25,889,508	3.7	1,502,762	23,316,229
消防費	-	-	-	-
教育費	115,310,713	16.5	4,946,539	82,996,176
災害復旧費	7,164,357	1.0	-	158,096
公債費	78,254,425	11.2	-	77,056,459
諸支出金	-	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-
利子割交付金	62,234	0.0	-	62,234
配当割交付金	446,288	0.1	-	446,288
株式等譲渡所得割交付金	456,591	0.1	-	456,591
分離課税所得割交付金	-	-	-	-
地方消費税交付金	26,523,821	3.8	-	26,523,821
ゴルフ場利用税交付金	267,911	0.0	-	267,911
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	327	0.0	-	327
軽油引取税交付金	-	-	-	-
自動車税環境性能割交付金	299,537	0.0	-	299,537
法人事業税交付金	1,767,966	0.3	-	1,767,966
特別区財政調整交付金	-	-	-	-
歳出合計	697,283,029	100.0	129,066,945	428,598,164

性質別歳出の状況（単位 千円・％）					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	239,108,542	34.3	202,985,497	200,890,864	55.5
人件費	145,640,445	20.9	119,016,226	117,135,895	32.4
うち職員給	104,607,683	15.0	79,399,024	79,285,540	21.9
扶助費	15,268,939	2.2	6,968,079	6,753,777	1.9
公債費	78,199,158	11.2	77,001,192	77,001,192	21.3
元利償還金	78,199,158	11.2	77,001,192	77,001,192	21.3
うち元金	75,177,145	10.8	74,052,946	74,052,946	20.5
うち利子	3,022,013	0.4	2,948,246	2,948,246	0.8
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	321,945,343	46.2	209,305,438	101,840,504	28.1
物件費	23,822,411	3.4	14,524,185	10,699,761	3.0
維持補修費	4,938,172	0.7	3,211,935	2,501,662	0.7
補助費等	190,288,031	27.3	131,424,696	81,300,341	22.5
繰入金	7,195,044	1.0	7,150,044	7,046,688	1.9
積立金	55,631,843	8.0	52,702,526	-	-
投資及び出資金	-	-	-	-	-
貸付金	40,069,842	5.7	292,052	292,052	0.1
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	136,229,144	19.5	16,307,229	-	-
うち人件費	1,988,931	0.3	238,853	-	-
普通建設事業費	129,066,945	18.5	16,151,291	-	-
うち補助	93,349,026	13.4	2,788,178	-	-
うち単独	27,508,376	3.9	11,866,031	-	-
災害復旧事業費	7,162,199	1.0	155,938	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	697,283,029	100.0	428,598,164	-	-

区分		令和3年度		令和2年度	
徴収率 (%) 現・計 (%) 年	合計	99.4	99.0	99.2	98.8
	道府県民税	99.1	97.9	99.0	97.7
	事業税	100.0	99.4	99.3	98.9
国民健康保険	実質収支	5,141,859	8,033,666		
事業会計の状況	再差引収支	5,141,859	8,033,666		

(注釈)
普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（都道府県）

令和3年度 当期値

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	729,827	716,990	12,837	5,200	24,064	857,230	
2 小規模企業等設備導入資金特別会計	440	251	189	-	0	428	
3 沿岸漁業改善資金特別会計	268	53	215	-	1	0	
4 山林基本財産特別会計	143	102	41	41	67	723	
5 拡大造林事業特別会計	132	127	5	0	20	284	
6 公共用地取得事業特別会計	294	294	0	0	241	0	
7 公債管理特別会計	82,003	82,003	0	-	77,627	0	
8 県立学校実習事業特別会計	238	187	50	50	0	0	
9 開発事業特別資金特別会計	26	26	0	0	26	0	
10 育英資金特別会計	3,217	478	2,739	-	22	0	
11 林業改善資金特別会計	881	54	827	-	0	0	
12 母子父子寡婦福祉資金特別会計	309	110	199	-	0	513	
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
23							

(3) 都道府県財政比較分析表(普通会計決算)

令和3年度

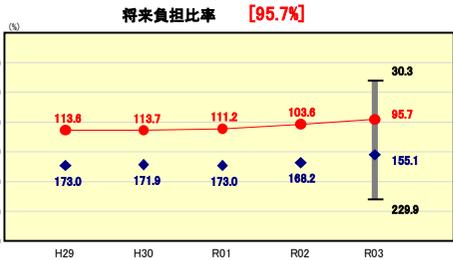
宮崎県

人	口	1,078,313	人(R4.1.1現在)	実	赤	字	比	-	%
うち日本人	1,071,373	人(R4.1.1現在)	連	結	実	赤	字	比	-
面積	7,735.00	km ²	実	公	債	費	比	10.6	%
歳入総額	714,385,081	千円	得	来	負	担	比	95.7	%
歳出総額	697,283,029	千円	グ	ル	ー	プ			
実収支差	5,296,204	千円	(年	度	毎)		
標準財政規模	341,128,195	千円	H29	D	H30	D	R01	D	
地方債現在高	951,666,142	千円	R02	D	R03	D			

● 当該団体値
◆ グループ内平均値
T グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
〔 Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 〕
※ 「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。
※ 「定員管理の状況」の「人口10万人当たり職員数」の算出に用いる職員数及び「給与水準(国との比較)」の「ラスパイレズ指数」については、各調査対象年度の翌年の地方公務員給与実態調査に基づいているが、令和3年度は令和3年調査の数値を引用している。

将来負担の状況



グループ内順位 3/13 都道府県平均 160.3

将来負担比率の分析欄
令和3年度は、減債基金や国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金等の将来負担額から控除される「充実可能基金」が増加したこと、普通交付税と臨時財政対策債発行額が増加して標準財政規模が増えたこと等により、将来負担比率は前年度と比較して7.9ポイント改善した。類似団体の平均値を下回っているが、今後は、防災・減災、国土強靱化対策や公共施設の老朽化対策、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に伴う施設整備等による地方債残高の増加が見込まれることから、財政健全化に向けた取組を着実に実行していく。

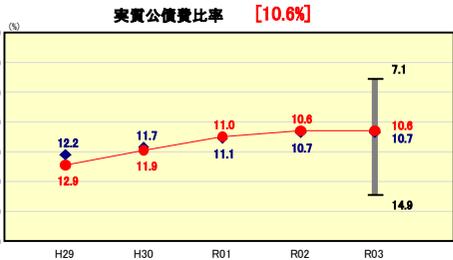
財政力



グループ内順位 6/13 都道府県平均 0.50

財政力指数の分析欄
令和3年度は、地域デジタル社会推進費の新設や国の補正に基づく事業等を円滑に実施するための臨時経済対策費等の創設(再算定)により基準財政需要額が増加したとともに、法人事業税等の税収減の見込み等により基準財政収入額が近年で最も低い水準となったことから、財政力指数が0.02ポイント低下した。

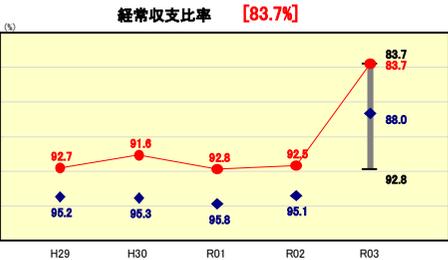
公債費負担の状況



グループ内順位 6/13 都道府県平均 10.1

実質公債費比率の分析欄
令和3年度は、普通交付税と臨時財政対策債発行額が増加して標準財政規模が増えたものの、3年平均では前年度と変わらず10.6%となった。これまでの県債発行額の抑制等の取組により、公債費の減少及び実質公債費比率の改善が図られているが、今後は、防災・減災、国土強靱化対策や公共施設の老朽化対策、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に伴う施設整備等による公債費の増加が見込まれることから、財政健全化に向けた取組を着実に実行していく。

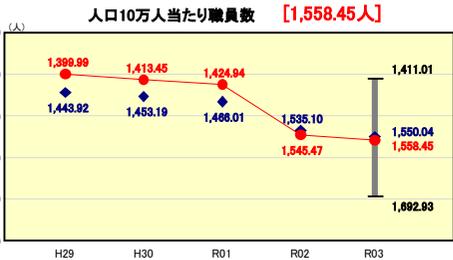
財政構造の弾力性



グループ内順位 1/13 都道府県平均 87.3

経常収支比率の分析欄
令和3年度は、歳入のうち地方税や地方交付税、臨時財政対策債等が増加したことから、経常収支比率は前年度と比較して8.8ポイント改善した。

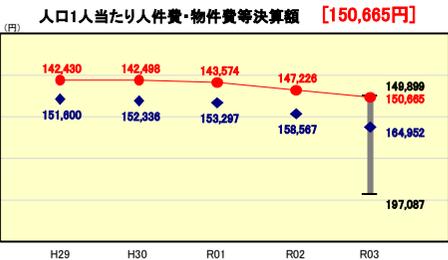
定員管理の状況



グループ内順位 7/13 都道府県平均 1,074.55

人口10万人当たり職員数の分析欄
令和2年度から教育関係の臨時職員を職員数に含めて算出しているため増加しているが、これまで行財政改革の一環として適正な定員管理に取り組んだ結果、平成17年4月以降、300人を上回る職員数の純減を行っている。今後とも、組織の簡素合理化や事務の効率化、民間委託等に取り組むとともに、スクラップ・アンド・ビルドを基本とし、新たな行政需要に応じていくための必要な人材の確保を図るなど、引き続き、適正な定員管理に努めていく。

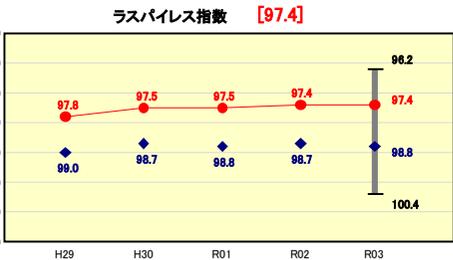
人件費・物件費等の状況



グループ内順位 2/13 都道府県平均 118,510

人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
令和3年度は、新型コロナウイルス対策事業に伴う物件費の増により、人口一人当たりの人件費・物件費等の決算額は前年度と比較して増加となった。これまでの行財政改革による総人件費抑制や経費節減の徹底等の取組の継続により、類似団体の平均値を下回っているが、引き続き適正な人員管理等により人件費の伸びの抑制に努めていく。

給与水準(国との比較)



グループ内順位 3/13 都道府県平均 99.9

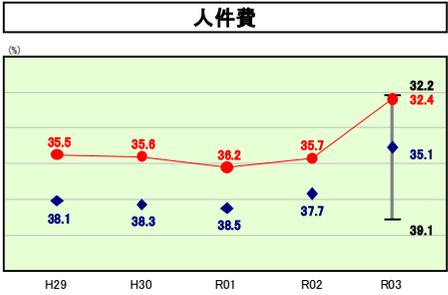
ラスパイレズ指数の分析欄
昇給昇格を厳格に行うなど、給与の適正な管理に取り組んできた結果、国及び都道府県平均を下回る水準となっている。また、特殊勤務手当の適正化や、普及指導手当の引き下げ、地域手当の異動保障廃止、旅費の適正化など、ラスパイレズ指数に表れない諸手当等の見直し等も行ってきており、今後ともこれまで同様給与水準の適正な管理に努めていく。

(4)-1 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

経常収支比率の分析

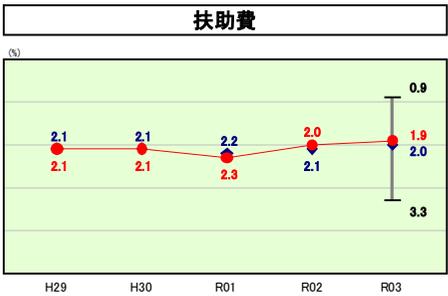
人口	1,078,313人 (R4.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	1,071,373人 (R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	7,735.00 km ²	実質公債費比率	10.6 %
歳入総額	714,385,081千円	将来負担比率	95.7 %
歳出総額	697,283,029千円	グループ (年度毎)	H29 D H30 D R01 D R02 D R03 D R01 D
実質収支	5,296,204千円		
標準財政規模	341,128,195千円		
地方債現在高	851,666,142千円		

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合、グループ内順位を表示しない。



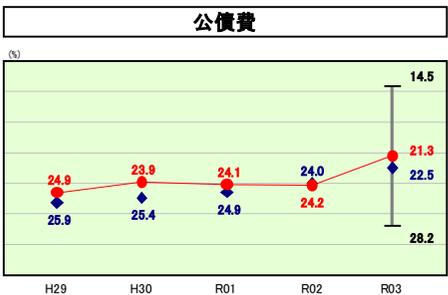
人件費の分析欄

令和3年度は、退職手当債の発行抑制に伴い(令和2年度:約16億円→令和3年度:0) 充当一般財源が増加した一方、地方税や地方交付税の増加等に伴い経常一般財源等総額が増加したことにより、前年度と比較して3.3ポイント減少した。
 これまで行財政改革の一環として、適正な定員管理等に取組んだ結果、類似団体と比較すると低い水準となっているが、今後も引き続き、適正な定員管理等による人件費の伸びの抑制に努めていく。



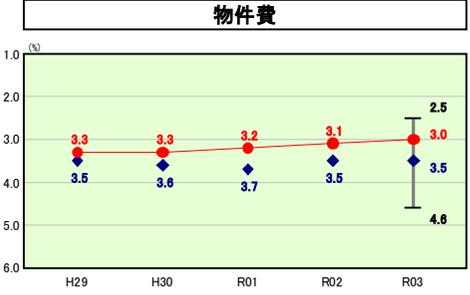
扶助費の分析欄

近年は、概ね同水準で推移しており、類似団体の平均値と同程度である。令和3年度は、前年度と比較して0.1ポイント減少した。



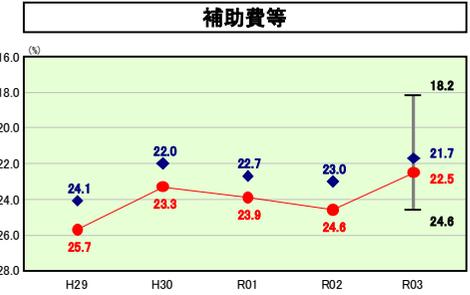
公債費の分析欄

過去の県債の新規発行額の抑制(臨時財政対策債を除く。)等の取組により、平成30年度までは減少傾向で推移し、近年は概ね同水準で推移していた。
 令和3年度は公債費が減少するとともに、地方税や地方交付税の増加等に伴い経常一般財源等総額が増加したことにより、前年度と比較して2.9ポイント減少した。



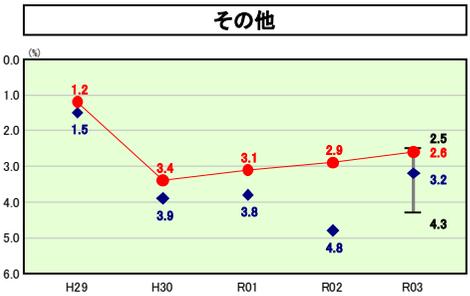
物件費の分析欄

行財政改革の一環として経費節減に取り組んでおり、類似団体の平均値を下回っている。
 引き続き、厳しい財政状況を踏まえ、経費節減に努めていく。



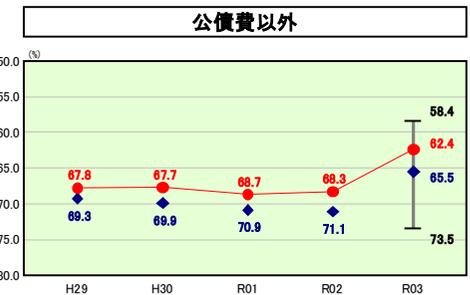
補助費等の分析欄

令和3年度は、介護保険財政支援事業など社会保障関係費の増加等に伴い充当一般財源が増加した一方、地方税や地方交付税の増加等に伴い経常一般財源等総額が増加したことにより、前年度と比較して2.1ポイント減少した。
 社会保障関係費については、今後も増加が見込まれることから、引き続き財政健全化に向けた取組を着実に実行していく。



その他の分析欄

【その他:貸付金、繰出金、維持補修費】
 令和3年度は、維持補修費が増加したものの、貸付金及び繰出金が減少したこと等により、前年度と比較して0.3ポイント減少した。
 維持補修費については、今後も公共施設の老朽化対策による経費の増加が見込まれるため、公共施設等総合管理計画に基づく長寿命化対策等により、財政負担の軽減や平準化を図っていく。



公債費以外の分析欄

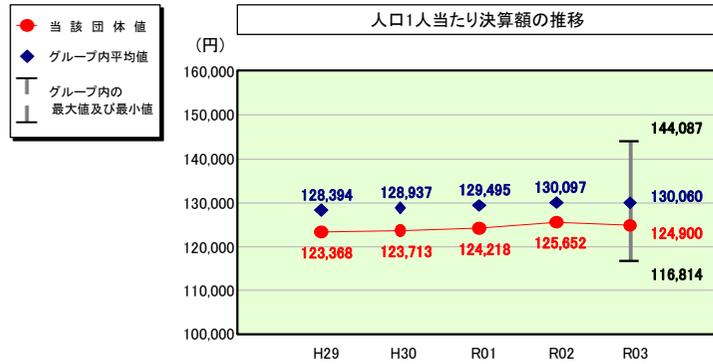
令和3年度は、人件費や補助費等において充当一般財源が増加した一方、地方税や地方交付税の増加等に伴い経常一般財源等総額が増加したことにより、前年度と比較して5.9ポイント減少した。
 社会保障関係費については、今後も増加が見込まれることから、引き続き財政健全化に向けた取組を着実に実行していく。

(4)-2 都道府県経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

宮崎県

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

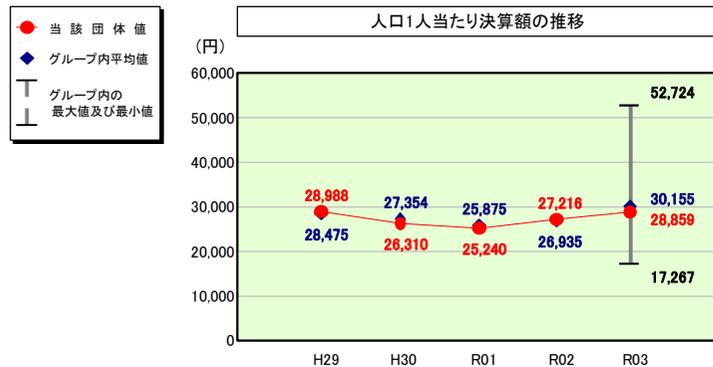
項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
人件費	145,640,445	135,063	139,124	▲ 2.9
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (補助費等)	978,180	907	810	12.0
公営企業 (法適) 等に対する繰出し (投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業 (法非適) 等に対する繰出し (繰出金)	-	-	7	-
事業費支弁に係る職員の人件費 (投資的経費)	1,988,931	1,844	2,682	▲ 31.2
▲退職金	▲ 13,925,872	▲ 12,914	▲ 12,563	2.8
合計	134,681,684	124,900	130,060	▲ 4.0

参考

項目	当該団体	グループ内平均	対比 (差引)
人口100,000人当たり職員数 (人)	1,558.45	1,550.04	8.41
ラスパイレス指数	97.4	98.8	▲ 1.4

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

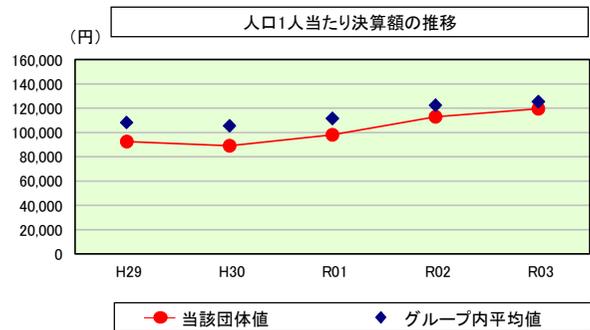
公債費及び公債費に準ずる費用の分析



公債費及び公債費に準ずる費用 (実質公債費比率の構成要素)

項目	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体 (円)	グループ内平均 (円)	対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	75,583,676	70,094	72,752	▲ 3.7
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	2,643,876	2,452	5,123	▲ 52.1
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	2,424,242	2,248	1,832	22.7
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	-	-	132	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	951,030	882	464	90.1
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	3	-
▲特定財源の額	▲ 769,396	▲ 714	▲ 2,200	▲ 67.5
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 49,714,492	▲ 46,104	▲ 47,951	▲ 3.9
合計	31,118,936	28,859	30,155	▲ 4.3

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

年度	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体 (円)	増減率 (%) (A)	グループ内平均 (円)	増減率 (%) (B)	(A)-(B)
H29	102,899,536	92,535	14.8	108,224	6.4	8.4
H30	18,699,294	16,816	▲ 17.5	27,358	1.7	▲ 19.2
		98,342,192	89,098	▲ 3.7	105,585	▲ 2.4
R01	18,595,117	16,847	0.2	26,225	▲ 4.1	4.3
		107,387,842	97,990	10.0	111,577	5.7
R02	22,432,744	20,470	21.5	26,257	0.1	21.4
		122,875,023	113,002	15.3	122,371	9.7
R03	29,763,393	27,372	33.7	28,038	6.8	26.9
		129,066,945	119,693	5.9	125,393	2.5
過去5年間平均	27,508,376	25,511	▲ 6.8	28,054	0.1	▲ 6.9
		112,114,308	102,464	8.5	114,630	4.4
	23,399,785	21,403	6.2	27,186	0.9	5.3

(5) 都道府県性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

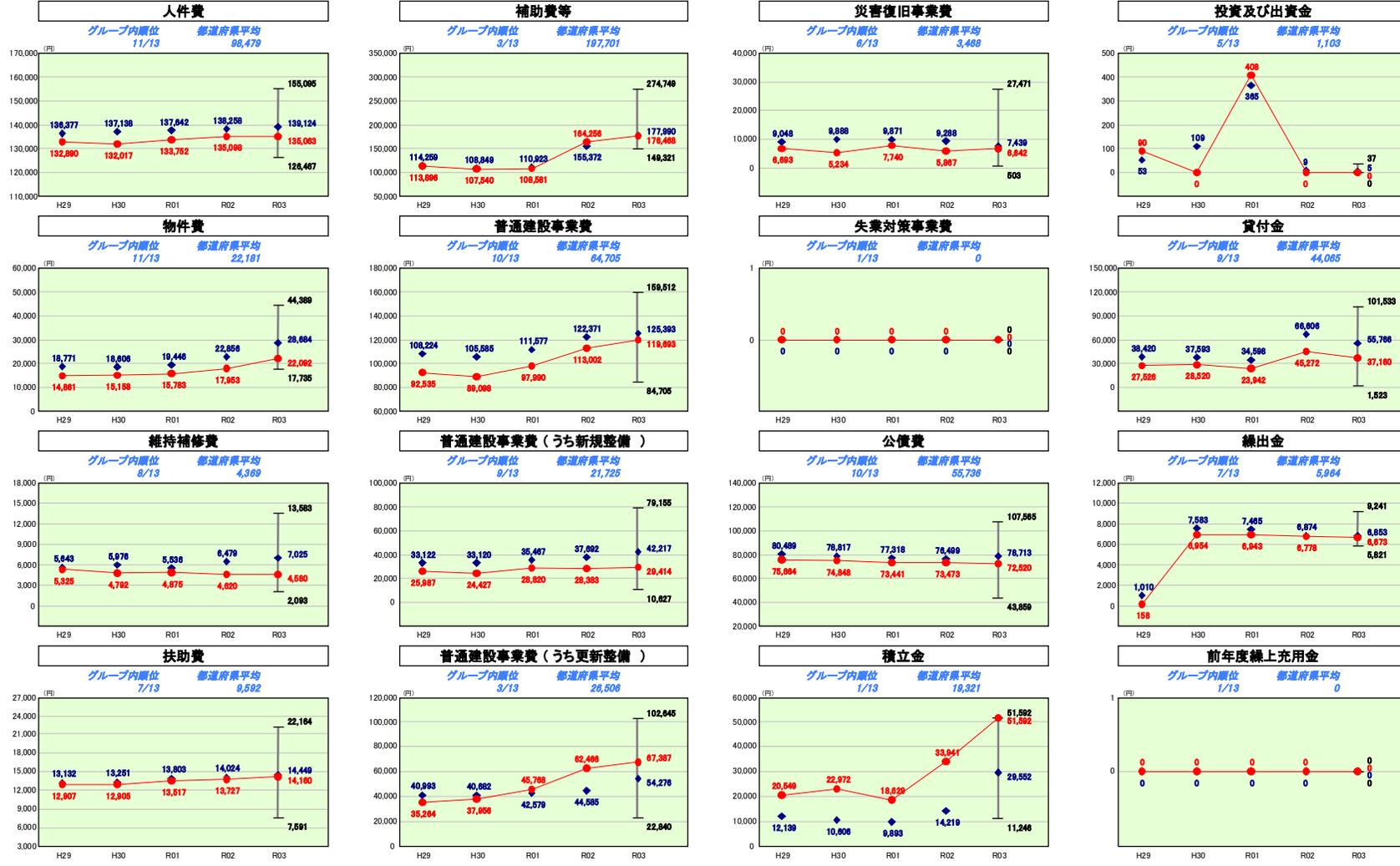
令和3年度

宮崎県

人口	1,078,313 人 (R4.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	1,071,373 人 (R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	7,735.00 km ²	実質公債費比率	10.6 %
歳入総額	714,385,081 千円	将来負担比率	95.7 %
歳出総額	697,285,029 千円	グループ	H29 D H30 D R01 D
実質収支	5,296,204 千円	(年度毎)	R02 D R03 D
標準財政規模	341,128,195 千円		
地方債現在高	851,666,142 千円		

◆ 当該団体値
 ◆ グループ内平均値
 T グループ内の
 ⊥ 最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 [Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満]
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。



性質別歳出の分析概

- 歳出決算総額で見た場合、令和3年度は住民一人当たり約64万円となっており、前年度と比較して約3万円増加した。
- 物件費が住民一人当たり約2万2千円となっており、前年度と比較して約4千円増加、補助費等が住民一人当たり約17万6千円となっており、前年度と比較して約1万2千円増加した。これは、新型コロナ対策費(感染症対策休業要請等協力金、医療提供体制の確保、経済対策等)等の増加に伴うものである。
- 普通建設事業費が住民一人当たり約12万円となっており、前年度と比較して約7千円増加した。これは、防災・減災、国土強靱化緊急対策事業費等の増加に伴うものである。
- 積立金が住民一人当たり約5万2千円となっており、前年度と比較して約1万8千円増加した。これは、財政調整基金、減債基金、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金等の積立金の増加に伴うものである。

(6) 都道府県目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

令和3年度

宮崎県

人口	1,078,313 人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	1,071,373 人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	7,735.00 km ²	実質公債費比率	10.6 %
歳入総額	714,385,081 千円	将来負担比率	95.7 %
歳出総額	687,283,029 千円	グループ	H29 D H30 D R01 D
実収支	5,296,204 千円	(年度毎)	R02 D R03 D
標準財政規模	341,128,195 千円		
地方債現在高	851,686,142 千円		

◆	当該団体値
◇	グループ内平均値
┆	グループ内の最大値及び最小値

※ グループとは、道府県を財政力指数の高低によって5つに分類したものである。
 { Aグループ 1.000以上、Bグループ 0.500以上1.000未満、Cグループ 0.400以上0.500未満、Dグループ 0.300以上0.400未満、Eグループ 0.300未満 }
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。
 ※ グループ内順位及び都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また同一グループの団体が存在しない場合グループ内順位を表示しない。

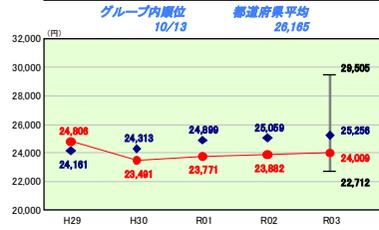
議会費



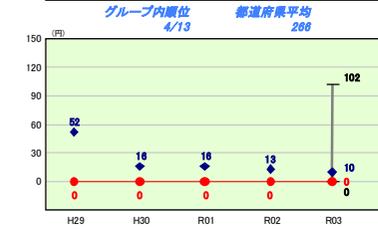
労働費



警察費



諸支出金



総務費



農林水産業費



教育費



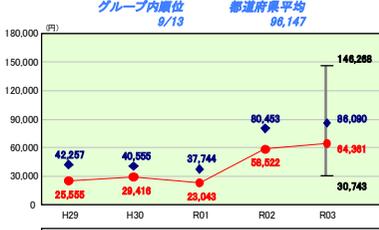
前年度繰上充用金



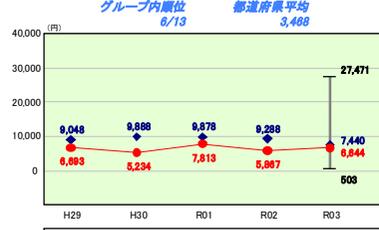
民生費



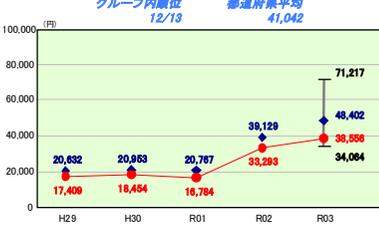
商工費



災害復旧費



衛生費



土木費



公債費



目的別歳出の分析概

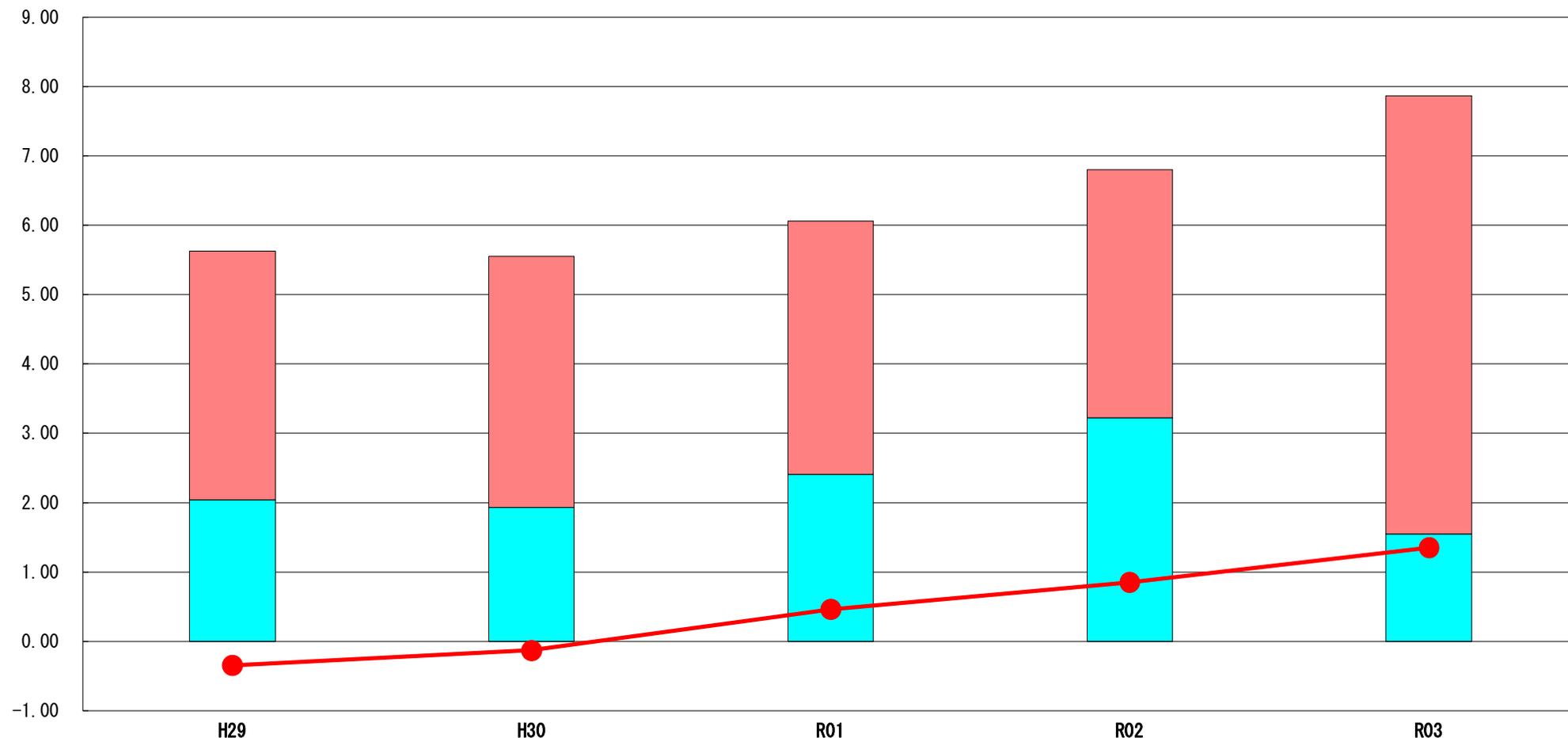
- ・総務費が住民一人当たり約7万6千円となっており、前年度と比較すると約1万7千円増加した。これは、減債基金の積立金等が増加したことによるものである。
- ・衛生費が住民一人当たり約3万9千円となっており、前年度と比較すると約5千円増加した。これは、新型コロナウイルス対策費等が増加したことによるものである。
- ・商工費が住民一人当たり約6万4千円となっており、前年度と比較すると約6千円増加した。これは、感染症対策休業要請等協力金事業や県内旅行支援事業等が増加したことによるものである。
- ・土木費が住民一人当たり約8万5千円となっており、前年度と比較すると約5千円増加した。これは、防災・減災、国土強靱化緊急対策事業等が増加したことによるものである。

(7) 実質収支比率等に係る経年分析（都道府県）

令和3年度

宮崎県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H29	H30	R01	R02	R03
 財政調整基金残高		3.59	3.62	3.65	3.58	6.32
 実質収支額		2.04	1.93	2.41	3.22	1.55
 実質単年度収支		▲ 0.35	▲ 0.13	0.46	0.85	1.35

分析欄

財政調整基金（財政調整積立金）残高は、近年110億円程度（県債管理基金と合わせた財政調整2基金残高では440億円程度）の規模を当初予算編成時の財源不足や災害時等の緊急的な支出への備えとして確保しており、令和3年度は地方交付税の減額精算への備えとして積み立てを行ったこと等により残高が一時的に増加している。

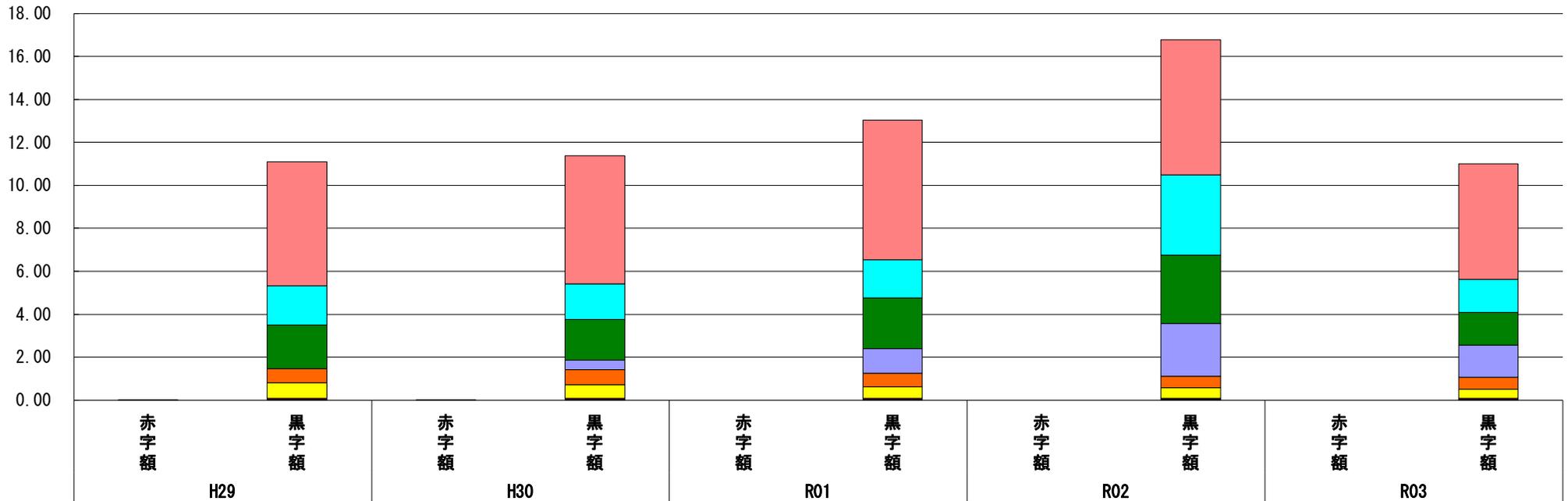
実質収支は黒字となっており、引き続き財政健全化に向けた取組を進め、健全な財政運営を行っていく。

(8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（都道府県）

令和3年度

宮崎県

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H29	H30	R01	R02	R03
電気事業会計		5.79	5.97	6.49	6.28	5.37
県立病院事業会計		1.82	1.65	1.79	3.75	1.55
一般会計		2.02	1.90	2.37	3.17	1.52
国民健康保険特別会計		-	0.44	1.14	2.45	1.50
工業用水道事業会計		0.66	0.69	0.64	0.55	0.55
港湾整備事業特別会計		0.72	0.64	0.53	0.48	0.44
地域振興事業会計		0.06	0.06	0.06	0.05	0.05
県立学校実習事業特別会計		0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
その他会計（赤字）		▲ 0.02	▲ 0.01	-	-	-
その他会計（黒字）		0.02	0.02	0.01	0.03	0.02

分析欄

普通会計全体としては毎年度黒字を確保している。

会計毎に見た場合、黒字額の標準財政規模比では電気事業が最も大きいですが、黒字額が前年度と比べて減少している。これは、固定資産除却費等の増に伴い事業費用が増加したことなどによるものである。

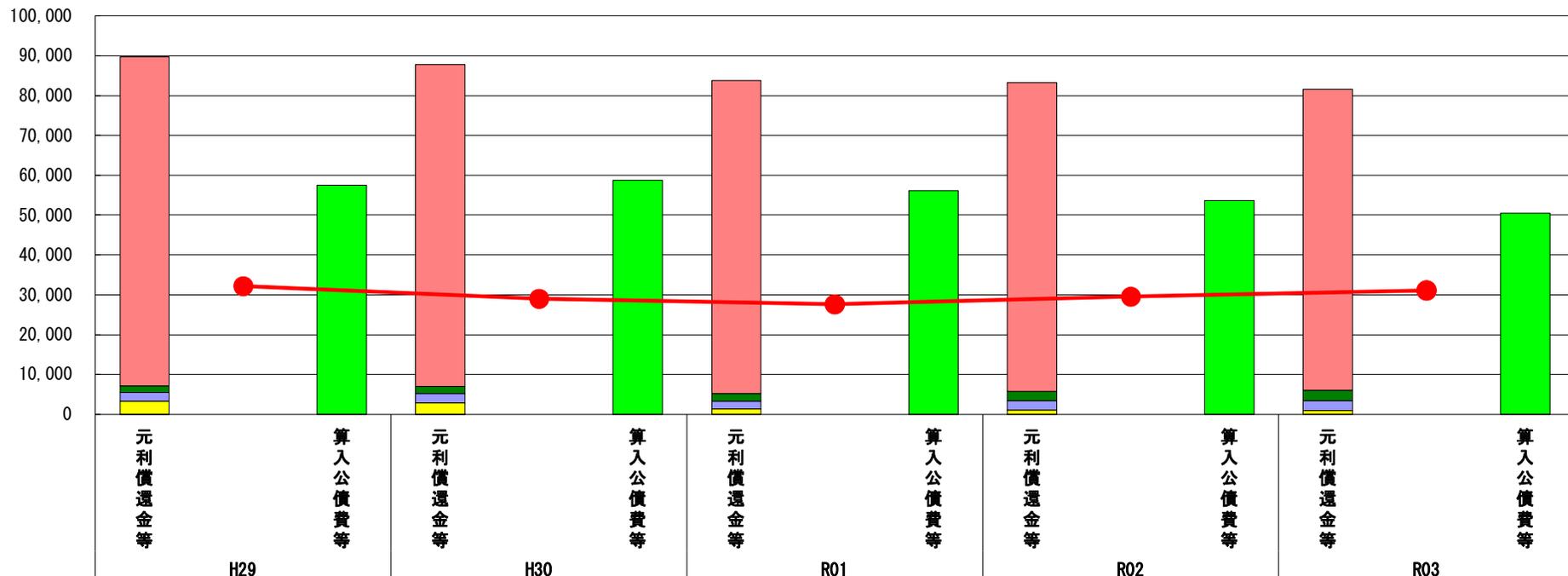
県立病院事業会計については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた前年度と比較して患者数が増加したことに伴い、入院収益、外来収益ともに増加したが、新病院への移転による経費の増加等に伴い事業費用が増加したことにより、黒字額が前年度に比べて減少したものである。

(9) 実質公債費比率（分子）の構造（都道府県）

令和3年度

宮崎県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度				
		H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金	82,605	80,787	78,635	77,677	75,584
	減債基金積立不足算定額※	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	1,561	1,854	1,877	2,244	2,644
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	2,310	2,278	1,971	2,341	2,424
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額	3,273	2,895	1,287	1,088	951
	一時借入金の利子	1	1	0	0	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等	57,515	58,775	56,110	53,756	50,484
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	32,235	29,040	27,660	29,594	31,119

分析欄

ここ数年は、低金利が進む中での新規借入や、高金利期に借り入れた県債の償還・借換が進んだことにより支払利息が減少しており、令和3年度は元利償還金が約21億円減少した。

実質公債費比率については、県債の発行額（臨時財政対策債を除く。）の抑制等の取組により、公債費の減少を主要因とした比率の改善が図られているが、今後は、防災・減災、国土強靱化対策や公共施設の老朽化対策、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に伴う施設整備等による県債発行額の増に伴う地方債残高の増加が見込まれることから、財政健全化に向けた取組を着実に実行し、引き続き健全な財政運営を行っていく。

(参考)

		年度				
		H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
※ 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)	9,766	7,074	6,711	4,588	4,165
	減債基金積立相当額	9,766	7,074	6,711	4,588	4,165

分析欄

満期一括償還による県債発行については、毎年度、県債発行総額や金利の状況を総合的に勘案しながら検討を行っており、償還元金に充てるための基金への積立は、積立ルールに基づき発行額の30分の1に相当する額を毎年度積み立てている。

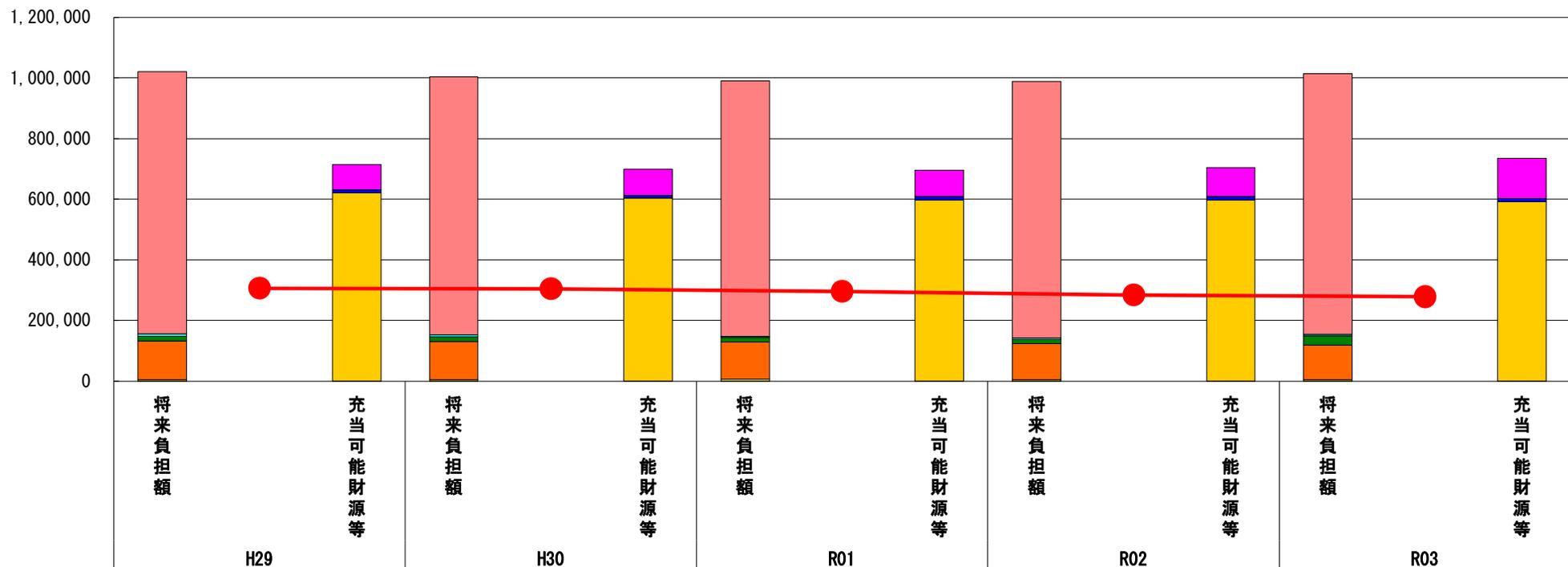
(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

(10) 将来負担比率（分子）の構造（都道府県）

令和3年度

宮崎県

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		865,365	852,394	842,950	846,037	859,177
	債務負担行為に基づく支出予定額		8,460	5,702	4,519	3,488	5,550
	公営企業債等繰入見込額		14,997	15,031	14,854	14,716	30,021
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		127,231	126,693	123,380	119,215	114,813
	設立法人等の負債額等負担見込額		5,728	4,698	5,888	4,649	4,141
	うち、健全化法施行規則附則第三条に係る負担見込額		60	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		83,937	86,765	87,095	95,199	131,479
	充当可能特定歳入		11,021	8,583	11,129	10,512	10,073
	基準財政需要額算入見込額		620,063	604,452	597,801	598,105	593,041
(A) - (B)	将来負担比率の分子		306,760	304,717	295,566	284,290	279,109

分析欄

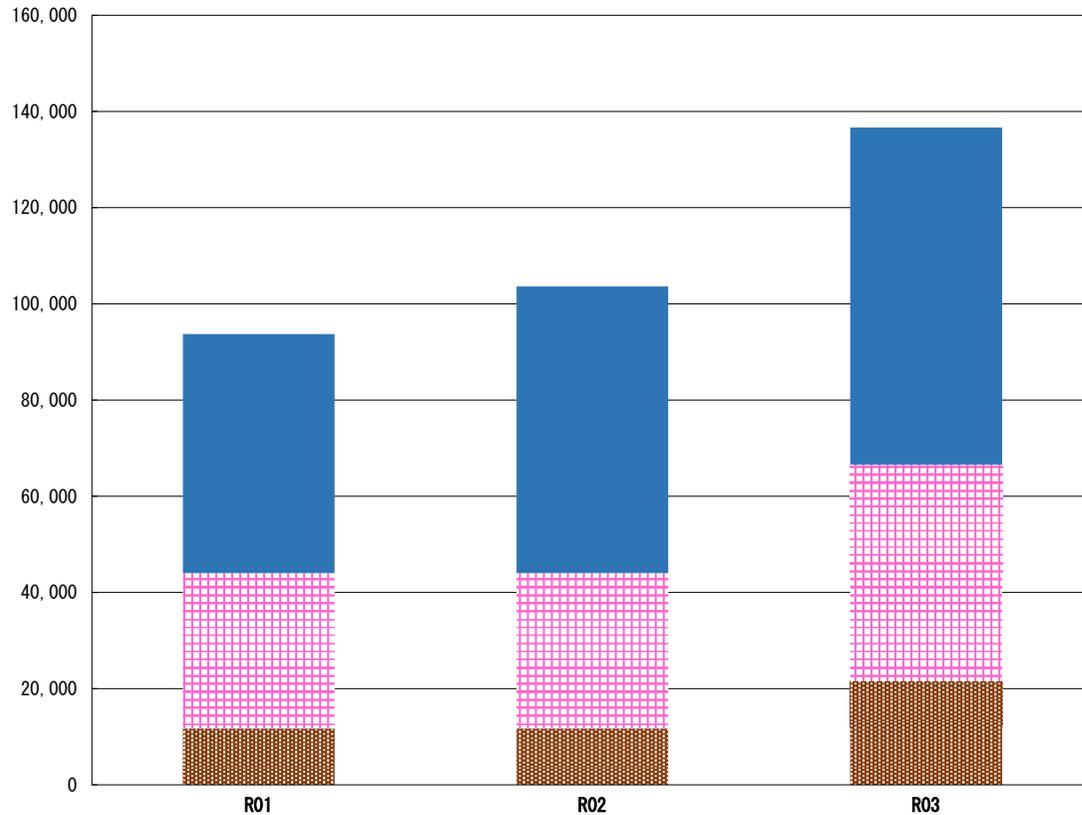
地方債残高(臨時財政対策債を除く実質的な残高)について、投資的経費の重点化による県債発行額(臨時財政対策債を除く。)の抑制等の取組により、令和元年度までは減少していたが、令和2年度以降は防災・減災、国土強靱化対策事業の増加等に伴い増加に転じており、令和3年度は前年度に比べ約131億円の増加となった。

しかしながら、令和3年度は、減債基金や国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金等の積立金の増加により、将来負担額から控除される充当可能基金が増加したこと等により、将来負担比率の分子が前年度に比べ約52億円の減少となった。

今後も防災・減災、国土強靱化対策や公共施設の老朽化対策、国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催に伴う施設整備等による県債発行額の増に伴い公債費の増加が見込まれることから、財政健全化に向けた取組を着実に実行し、引き続き健全な財政運営を行っていく。

(11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（都道府県）

(百万円)



(百万円)

区分	年度	R01	R02	R03
財政調整基金		11,721	11,723	21,546
減債基金		32,261	32,306	44,986
其他特定目的基金		49,729	59,584	70,128
県有施設維持整備基金		23,871	25,299	30,661
宮崎県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金		—	9,174	17,089
地域医療介護総合確保基金		7,366	6,210	5,820
後期高齢者医療財政安定化基金		1,983	2,163	2,342
介護保険財政安定化基金		1,803	1,803	1,803
基金残高合計		93,710	103,613	136,660

令和3年度

宮崎県

基金全体

(増減理由)

・基金残高が増加した主な要因としては、「減債基金」で約169億円、「地域医療介護総合確保基金」で約20億円、「宮崎県人口減少対策基金」で約8億円の事業実施等に伴う基金の取崩しを行った一方で、「財政調整基金」で約98億円、「減債基金」で約296億円、「宮崎県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金」で約79億円、「県有施設維持整備基金」で約55億円を積み立てたこと等により基金全体としては約330億円の増となった。

(今後の方針)

・「財政調整基金」及び「減債基金」の2基金残高については、一定規模の確保に努めるとともに、「県有施設維持整備基金」及び「宮崎県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金」については、計画的な積立、取崩を行っている。

財政調整基金

(増減理由)

・令和3年度の法人関係税収が好調であったことに伴う地方交付税の減額精算（令和4年度以降の3年間で減額）に対する備えとして積み立てたこと等により、約98億円の増となった。

(今後の方針)

・減債基金を合わせた2基金について、令和3年度の残高は増となった。しかしながら、毎年度の予算編成において多額の基金取崩し※を計上する厳しい状況が継続しており、今後も一定規模の基金残高の確保に努めていく。※令和5年度当初予算においては財政調整基金35億円、減債基金約212億円の取崩を計上。

減債基金

(増減理由)

・防災・減災、国土強靱化対策や今後本格化する国民スポーツ大会施設等の整備に伴う公債費増加への備えとして積み立てたこと、普通交付税の再算定により措置された臨時財政対策債償還基金費を積み立てたこと等により、約127億円の増となった。

(今後の方針)

・財政調整基金を合わせた2基金について、令和3年度の残高は増となった。しかしながら、毎年度の予算編成において多額の基金取崩し※を計上する厳しい状況が継続しており、今後も一定規模の基金残高の確保に努めていく。※令和5年度当初予算においては財政調整基金35億円、減債基金約212億円の取崩を計上。

其他特定目的基金

(基金の用途)

- ・県有施設維持整備基金：県有施設の維持整備
- ・宮崎県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金：令和9年に開催予定の国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の開催
- ・地域医療介護総合確保基金：地域における医療及び介護の総合的な確保
- ・後期高齢者医療財政安定化基金：後期高齢者医療に係る財政の安定化
- ・介護保険財政安定化基金：介護保険に係る財政の安定化

(増減理由)

- ・県有施設維持整備基金：県有施設の維持整備に要する財源として約55億円を積立。
- ・宮崎県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金：開催に要する財源として約79億円を積立。
- ・地域医療介護総合確保基金：地域における医療及び介護の総合的な確保に要する財源として約20億円を取崩し。
- ・宮崎県人口減少対策基金：人口減少対策に要する財源として約8億円を取崩し。

(今後の方針)

- ・県有施設維持整備基金：公共施設の老朽化対策等の財源として、今後も計画的な積立、取崩を行っている。
- ・宮崎県国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会開催基金：令和9年度に開催予定の国民スポーツ大会等の財源として、計画的な積立、取崩を行っている。